

「当事者の責任」にのみ切り縮めるな!

原因は「行き過ぎた効率化」の結果だ!

乗務員の「起床遅延発生」について会社プレスが発表されましたが、その内容は「車掌が寝坊したから発車が遅れた」と事実だけで、「なぜ事象が発生してしまったのか」は一切触れられていません。

確かに、「起床装置」の設定を忘れてしまった当事者の責任もありますが、これまでも「事故防止対策が無い」との声に会社が何も対策してこなかった結果引き起こされた事象ではないのでしょうか?

以前からの声

- ・出先泊地の「起床装置」の設定・起床時間のチェックが当直でできない。
- ・「起床時間」を廃止し「点呼時間」のみの設定としたため「乗務前準備時間」の余裕が無くなった(点呼から発車までの時間は7分しか無い)
- ・休養室に電話(当直からの連絡手段)が無く、業務用携帯では気付きにくい(乗務カバンに入れている等)と言う指摘を聞かない
- ・効率化として「運転士の始発列車ドア開扉」とし、車掌の準備時間(10分前ドア扱い付加時間)を削った結果、起床～発車での猶予時間が無くなった

リスク管理、「必要な対策には金を出す」と副社長が発言しているのだから、現場は対策をしないとマズいんじゃないのですか?

再発防止の対策をしない、乗務員の声も聞かない、会社としての責任取らないの「ナイナイづくし」では、社員はたまったものではありません!

過度に「効率化・コストカット」をしすぎ、本当に必要な物・時間まで削ってしまった結果が事故・事象の原因なのではないのでしょうか?

これからも再発防止の対策を求めていかなくてもなりません!